

1954—1972 合併からのまちづくり

【昭和29年～昭和47年】

市域が広がり、ますます活気づく平塚市

city
hiratsuka
kanagawa
70th
Anniversary

戦後の復興を支えてきたのは、多くの人たちの協力でした。周辺の町村と合併を重ね、昭和32年(1957年)に現在の市域となります。生産地域と住宅地域、観光地域を持つ近代的な都市へと発展し、生活基盤の安定を目指していきました。

1954年 DATA ●人口65,669人 ●世帯数14,113世帯 ●面積18.17km² ●人口密度3,614人/km²
[10月1日現在]



旭村役場から平塚市役所旭支所へ
◎昭和29年(1954年)7月15日、人口60,764人、戸数13,764戸の商工都市、平塚市は、人口3,633人、戸数600戸で農業を主とした旭村と合併しました。この合併で平塚市は農業も加わる複合都市の形態となり、大磯丘陵の一部が加わり、観光の面でも恵まれてきました。

育まれる
都市の活力

人々が力を合わせ、まちの復興に取り組む中、平塚市は、昭和二十九年(一九五四年)に旭村と合併し、農業も加わる複合都市になりました。昭和三十一年(一九五六年)には、大野町、神田村、城島村、金田村、土沢村、岡崎村と合併、翌年には金目村とも合併し、現在の平塚市の市域になりました。面積は約六十八平方キロメートル、人口は約十三万人、自然環境に恵まれ、商、工、農、住のバランスのとれた都市が生まれました。

市域が広がった平塚市は、首都圏のベッドタウンになり、人口も徐々に増えていきました。人口の増加とともに商業が発展し、まちが活気づいてきます。平塚三大まつり(労働祭、夏の七夕まつり、秋の産業まつり)のにぎわいは、人々の活力を象徴していました。また、海軍火薬しょうやく廠の跡地などには新工業地帯ができ、産業も発展していきます。さらに、学校や公民館ができたり、下水道建設事業が始まったりするなど、まちに暮らしの基盤が整備されてきたのもこのころでした。

昭和四十二年(一九六七年)には、二十二年の歳月を経て、戦災復興事業としての土地区画整理が完成します。これによって平塚の道路網は、湘南地区随一の発達を遂げました。高度経済成長に後押しされながら、平塚のまちはますます活気づいていきます。

●平塚市の主な出来事【1954～1972】



駅西口乗降口と跨線橋の完成◎首都圏のベッドタウン化で人口が増え、平塚駅の乗降客も年々増えていきました。昭和34年(1959年)4月にできた平塚駅西口乗降口と跨線橋の設置で、乗客の混雑緩和と線路を挟んだ通行が踏み切りなしで可能になりました。



市庁舎落成◎昭和39年(1964年)11月、大蔵省から払い下げを受けた八幡神社の北側に新しい市庁舎ができました。従来の庁舎は大正時代に建てられたものに木造バラックを増設してきた建物だったため、近代設備を持った画期的な構想と設計が話題を呼びました。



第1回産業まつり◎昭和35年(1960年)10月、県と共催で開かれていた農業まつりを、市が主催することとなり、実りの秋と勤労の喜びをたたえる「産業まつり」が始まりました。春の労働祭、夏の七夕まつりと並ぶ三大まつりの一つとしてにぎわいました。

- 昭和29年(1954年) 旭村と合併
- 昭和30年(1955年) 平塚市観光協会が発足。第10回国民体育大会で4競技を開催
- 昭和31年(1956年) 大野町、神田村、城島村、金田村、土沢村、岡崎村と合併
- 昭和32年(1957年) 金目村と合併、現在の市域に
- 昭和33年(1958年) 金旭中学校に市立学校プール第1号が完成
- 昭和34年(1959年) 駅西口と跨線橋が完成。湘南平が開園
- 昭和35年(1960年) 第1回産業まつりを開催
- 昭和36年(1961年) 平塚・厚木間に新県道が完成
- 昭和37年(1962年) 市民センターが完成
- 昭和38年(1963年) 駅南口に人魚の像「海の讃歌」が完成。東海大学湘南校舎が開校
- 昭和39年(1964年) 市内電話が自動化。新(現)市庁舎落成
- 昭和40年(1965年) 公共下水道事業を決定。馬入工業団地が完成。中央地下道が開通
- 昭和41年(1966年) 相州須賀湊の碑を建碑
- 昭和42年(1967年) 湘南海岸公園に新プールが完成。サイクリング道路が開通
- 昭和43年(1968年) 県平塚合同庁舎が完成。市民病院業務スタート
- 昭和44年(1969年) 小田原厚木バイパス開通、平塚料金所で開通式
- 昭和45年(1970年) 図書館が文化センター内へ移転。歩行者天国が始まる
- 昭和46年(1971年) 県立平塚青少年会館が開館。東部ポンプ場が完成
- 昭和47年(1972年) 大神清掃作業所に連続焼却炉が完成。五領ヶ台公園が完成



歩行者天国始まる◎安心して買い物ができる歩行者天国は、湘南地方で一番早く、昭和45年(1960年)8月に始まりました。国道1号(現市道)の中心商店街と紅谷町の繁華街を、日曜日の午後1時から6時まで車を通行止めにし、商店会や警察の協力のもと、のびのびと楽しめる空間を作りました。

「子どもの遊び場は無限大に広がっていましたね」

家が農家なので、ずっと金目地区に暮らし、今は1,000坪のビニールハウスでバラ作りに励んでいます。花の栽培を通して、緑豊かな平塚の自然を守っていることを誇りに思います。この辺りも道路ができてからは、だいぶ家が建ちましたが、ここから眺める富士山や丹沢の山並みは昔と変わらず、心が洗われるようなすばらしい景色です。

小さいころは、見渡す限り田んぼが広がり、そこらじゅうが遊び場でした。山や川、畑、牧場など、子どもの世界はあちこちにありましたね。山では、木登り、栗拾い、山ぶどうやあけび取り。そして、金目川では、水遊びや魚取り。いたずらもよくやりましたよ。同級生たちと一緒に、近所の畑に入ってびわを

食べ、怒られたのを覚えています。遠くに出かけることなどめったになくて、1年に1回、近所の農家が数家族集まり、熱海などの温泉に行くのが楽しみでしたね。

平塚の温暖な気候は、米作、畑作、果樹栽培といった、様々な分野の農業が発達するのに、とても良い条件がそろっています。今、農業は全体的に後継者不足に悩まされています。しかし、この恵まれた自然条件を農作物や花きの栽培に生かし、これからも平塚らしさを伝えていきたいですね。多くの人たちが、豊かな自然に関心を持ち、実際に楽しんでくれたらと思っています。花がまちにあふれ、多くの人たちが家庭に花を飾るようなゆとりをもった暮らしができればいいですね。



1954年生まれ
小沢静男さんの
ひらつか話